

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品

1. <青森県 菓子 >
物価、賃金上昇により消費者の購買力が落ちている。特に路面店が減少。一方、インバウンド効果により観光土産品が売上を伸ばしている。
2. <宮城県 水産練製品 >
値上げにより売上額は増加したが収益はどのメーカーも厳しい。一方でPB商品は値下げの動きがある。賃上げ原資を捻出するためにも値上げを続けなければならないが、今後の値上げは先が読めない状況。
3. <静岡県 パン >
健康意識の高まりに伴い穀物や種子を含んだ多粒穀物パン、無添加の天然酵母を使用したパン、グルテンフリーのパンなど、健康に配慮したパンや、地域の原材料を使用したパンへの需要が増えている。
4. <岐阜県 米菓 >
令和5年の猛暑により、主要原材料である「うるち・もち米」、「海苔」の収穫数の減少等の要因で、原材料の高騰が始まりだした。光熱費・人件費の高騰は改善しない中、泣き面に蜂の状況である。
5. <岡山県 酒造 >
飲食を伴うお酒関連のイベント等コロナ禍前に戻り活況を呈しているが、需要が従来に戻るほどではない。輸出も中国は厳しい状況になっていることから、中国以外の市場開拓に動く酒造場が増えている。
6. <大分県 菓子 >
観光シーズンに入り今年は外国人観光客が特に多く、全体的に県内各地の人の動きが良かったこともあり、土産品の売上もかなり良かった。地域密着の小売店も忙しかったようで、今年は菓子が売れた。

繊維工業

7. <群馬県 外衣・シャツ >
価格転嫁の交渉をしたとしても、人件費に吸収されてしまい利益が減少している。海外向け輸出や新規事業の開拓が必要不可欠と考えている。
8. <福井県 織物工業 >
産地全体ではヨーロッパや中国の経済悪化の影響等もあり、全般的に弱含み。全般的に価格転嫁は進んでいるものの、在庫調整局面が続いていることで発注量が減少しており、業界全般で厳しい状況。
9. <京都府 染色整理業 >
日本の伝統文化への関心は高まってきており、着物を着たいと思う者は増えてきていることが感じられるが、コト消費への移行が明確な中、伝統工芸品である着物を購買する者はごく限られた状況にある。
10. <和歌山県 繊維工業 >
人件費、物価、材料費高騰により、円安にも関わらず海外生産（ベトナム、中国等）が増加している様子。円安で海外生産が高くなる分、国内生産分を値切ってくる傾向があるとの会員企業の声も聞かれる。
11. <香川県 手袋 >
皮革・合成皮革手袋については上向く気配もなく弱含みは続いている。繊維製手袋についても価格帯は下がっており皮革ほどではないが悪化している。今後はUVカット商品の動きに注目している。
12. <沖縄県 繊維・同製品 >
需要はコロナ禍前と同水準に回復しているものの、縫製技術者が減少していることから供給が思うように進まない。他業種と人員獲得を争う状況下にあり、賃金引き上げのため工賃の見直しを望む声が多い。

木材・木製品

13. <青森県 製材 >
木材市場はウッドショック以前の状況となり、外材主体に戻った状態が続いている。そのために県産材（特にスギ材丸太）の在庫を多く抱えており、製品の出荷もままならない状態。
14. <秋田県 家具建具 >
4月の売上高は、前年同月比で増加した。インバウンド効果による大都市圏や観光地の需要が出てきており、県外取引先を主としている事業者は売上を伸ばしている。
15. <栃木県 建具 >
住宅戸建の売れ行き不振、着工数の減少により、木材合板類の価格が下落。売上の減少と利益額の減少に見舞われている。設備機器、工賃の上昇により住宅価格が上がっている為、住宅取得の動きが鈍い。

16. < 京 都 府 製材・木製品 >

大幅な円安の為、木材価格が高止まりしている。ウッドショックによる価格高騰後、やや落ち着きを見せたところ円安が進み、5年前と比較して、ほぼ倍の価格の木材もある。

17. < 徳 島 県 製材 >

資材高騰・原油高に加え円安下で価格転嫁をしたいが、住宅販売が不振で、木材の動きが悪く値段を上げにくい。欧州集成材、米松、合板は価格が上がっておらず、特にスギ丸太の価格は弱含み。

18. < 佐 賀 県 家具 >

消費に関しては、先月同様にあまり振るわない状況である。4月の業者展示会でも来場社数は少なく、市況の冷え込みを反映しているようである。

紙・紙加工品

19. < 北 海 道 加工紙 >

輸送の問題では発注から納品までのリードタイム延長を検討する動きが出てきている。このことにより地方のユーザーは益々不利な状況となり、疲弊するのではないかと考えられる。

20. < 愛 知 県 紙器・段ボール >

インバウンドを中心に駅に人が戻り小物の土産物の箱がよく出ている。全ての物が値上がりしてコスト高となっているため貼り箱から印刷箱、印刷箱から袋のように資材コスト削減の動きがある。

21. < 岐 阜 県 機械すき和紙 >

サプライチェーン間にある在庫が消化されつつある。紙業業界は、業者間の格差はあるものの、前月同様に売上が増加し、収益状況も好転してきた。

22. < 大 阪 府 古紙収集加工 >

東南アジアの古紙輸入国は米国からの輸出が滞った為、日本品にシフトしている模様で、欧州品もオリンピック需要が高まり価格も上がっている。円安の影響もあり、輸出価格は上昇基調となっている。

23. < 愛 媛 県 機械すき和紙 >

衛生用紙の国内出荷は、前年同月比5.7%増、2カ月連続のプラス。大手メーカーや静岡地区メーカーを中心に、トイレトペーパー値上げ前の駆け込み需要が発生している。

24. < 高 知 県 手すき和紙 >

3月は売上が少し持ち直し、このままの状況が4月も継続している。ほんの少しだけ、改善の兆しが見えつつあるが、良い状況になればと願っている。

印刷

25. < 宮 城 県 印刷・同関連 >

印刷、情報用紙の国内出荷が前年同期比26カ月連続で減少、紙離れ傾向は引き続き顕著である。官公庁からの印刷物の発注も減少傾向にある。4月に入り引き合いは厳しい状況にある。

26. < 秋 田 県 印刷 >

新年度の需要期であり官公需は増加しているが、民間需要に関してはペーパーレスが進み苦労している組合員企業も少なくない。前年から廃業・倒産もあり、小規模事業者の退会も発生している。

27. < 茨 城 県 総合印刷 >

電子データ等の増加によって紙への印刷需要の減少が顕著。加えて資材の値上がりなどコスト上昇分を販売価格にフルに転嫁できない印刷業界の「弱い立場」が恒常的に続き、収益、資金繰りを圧迫している。

28. < 栃 木 県 印刷 >

官公需は低調、民需は連休前の一定の需要はあるがネット通販印刷の影響で工賃が低く抑えられており、コスト上昇分の価格転嫁は進まない。

29. < 香 川 県 印刷 >

年度末までは仕事量もあり忙しくしていたが、4月に入るなり仕事が極端に減り、残業も無く機械を回す。定時内での仕事量も空いてしまっている状況である。

30. < 宮 崎 県 印刷・同関連 >

市場では、経済は回復傾向にあるようだが、印刷業界では原材料費の高騰、人件費の値上げ政策、人手不足、需要の回復遅れなど、かなり厳しい状態が続いている。

化学・ゴム

31. < 神 奈 川 県 化学・ゴム >

組合員から、「急激な円安進行で、原材料価格の高騰が懸念される。」また、「人材確保では、特に新卒が売り手市場で、採用活動に苦戦している。」との情報が寄せられた。

32. < 岐 阜 県 プラスチック製品 >

各分野の在庫調整・生産調整は戻りつつあるものの、労務費や原材料価格の値上がりや物流の2024年問題など、対応すべき課題が山積みである。

33. < 京 都 府 プラスチック製品 >

当月は連休の始まり月で、発注元の先行きが非常に不安定で、この連休後の状況が読めない。従業員の就労も時間内に納めており、従業員の収入面では厳しい状況にある。

34. < 奈 良 県 プラスチック製品 >

受注は改善してきているものの、材料費や人件費の高騰が続いており、物価高の影響による買い控えが長期化しているものと考えられる。依然、受注改善の動きが極めて低く収益的に厳しい状況が続いている。

35. < 大 阪 府 セルロイド・プラスチック製品 >

売上高、稼働状況は復調の兆しを見せているが、円安による原材料コストや燃料高による製造コストのアップにより経営状況は悪化しており、そのため資金繰りにも影響が出ている。

36. < 兵 庫 県 ゴム製品 >

操業度・稼働率等は若干ではあるが改善されている。反面、過度な円安によるコスト増大、或いはインフレによる消費者の買い控え等がみられ、業界全体としては景気が上向いたとは言いがたい。

窯業・土石製品

37. < 栃 木 県 陶磁器・同関連製品 >

陶器市の準備で原材料の売上は好調である。5月は陶器市も終わり、一段落する為、売上が下がらないか心配である。他産地の原材料屋の縮小や閉山があり、原料の調達が問題になりそうである。

38. < 滋 賀 県 陶器 >

陶土・釉薬出荷量は前年比約120%となり、春先の陽気で産地を訪れる観光客や買い物客が増加した。大阪・兵庫方面や愛知・岐阜方面からの日帰りの外出先として認知度が向上している。

39. < 兵 庫 県 窯業・土石製品 >

工事の前倒し関係から製品も前倒発注となったことと、大口の特注があったことから売上増加に至った。今後の課題事項として、運送業者の製品搬入についての時間・運賃等の問題を改善する必要がある。

40. < 山 口 県 陶磁器・同関連製品 >

外国人観光客、団体観光客も多く見られるようになった。4月4日、22日、24日にフランス船籍、ポルトガル船籍のクルーズ船が寄港。市内観光を楽しまれ、萩焼も購入いただいた。

41. < 宮 崎 県 窯業・土石製品 >

昨年と同月と比較すると244%と非常によくなっている。この数字はあくまで繰越し物件があることが起因しているため、今後の官公需の発注状況を注視していきたい。

42. < 沖 縄 県 ガラス製品 >

春休み・GWの集客が好調で直営店の売上は前年比20%ほど増加。特にメニューを拡充した体験の売上が好調で、直営店だけだとコロナ以前を上回る売上を記録できた。

鉄鋼・金属

43. < 福 島 県 鉄構 >

前月に続いて 鋼材及び消耗費の高騰が続き、仕事受注がかなり薄くなって来ている。単価も上昇傾向にあり、働き方改革の以前に仕事の受注量の問題で苦しんでいる。

44. < 茨 城 県 鉄鋼 >

売上・設備の操業度とも1割程度減少している。建設・住宅関連部品、機械部品等の加工受注量についても前年より減少傾向である。金属材料はすべてが値上がりしており、貴金属等も高値で推移している。

45. < 千 葉 県 機械部品 >

前月比は売上及び利益ともに減少であったが、前年同月比は売上及び利益ともに増加。完全にコロナ禍前のベースに戻ったが、材料、商材、エネルギー価格が全て大幅なアップとなっている。

46. < 島 根 県 鋳物 >

当県の3月鋳鉄鋳物生産量は前年同月比75%、生産金額も前年同月比63%と大幅な減少となった。一部の自動車メーカーの操業停止等の影響もあったが、客先の生産計画減少の影響等が要因と思われる。

47. < 徳 島 県 鉄鋼 >

業況は概ね横ばいで推移しているが、設備操業度の低下が見受けられる。全国の景気判断は穏やかに回復しつつあると言われてしているが、その実感は薄く、先行き不透明感が拭えないところである。

48. < 沖 縄 県 鉄鋼 >

公共、民間工事共に大型物件が順調に推移している。特に民間工事においては、マンション建設が数件同時期に稼働し、個人住宅においても、増加の兆しが見られる。

一般機器

49. < 山 形 県 その他の電気機械器具 >

各製造業において、今後電気料金への国の補助がなくなることへの不安感が大きい。油圧機械等の海外向けの販売価格への転嫁が若干ではあるが進んできている状況にある。

50. < 群馬県 はん用機械器具 >

人手不足や原材料高騰により収益が悪化している。パートナーシップ構築宣言により、大手企業に対する価格転嫁は進んでいるが、中小企業に対してはまだ不十分な様子。また、為替の動向を注視している。

51. < 東京都 食品機械 >

部品の調達遅れが解消し、全体の販売額はコロナ禍前の水準まで回復。円安により輸出高についても昨年後半から増加傾向となっている。今後は、物価高騰や急激な為替変動について注視していく必要がある。

52. < 三重県 一般機器 >

材料価格、仕入価格の上昇分の値上げは認めてもらったが、受注そのものが低調で、先行きの見通しは相変わらず不透明の状況だ。自動車関係の落込みは大きく、設備投資も抑え込まれている。

53. < 大阪府 印刷製本機械 >

業界内でも専門とする分野によって景況感は大きく異なっているが、最も売上高を占める一般印刷が悪いため、輪転機などは全く新規発注が無い状態である。

54. < 愛媛県 鉄工 >

現状、売上については大きな変化は見られない。但し、円安の影響や、燃料油脂費の高止まり、諸物価高騰に対応するための値上げや賃上げ等、経営環境は厳しい状況が続いている。

電気機器

55. < 福島県 電子部品 >

自動車産業に関連する販売の低下で製造業にも影響が見られるなか、GWも大手並みの休業を余儀なくされている。生産の効率化をより進め、新たな受注の機会を増やしていくことも必要。

56. < 埼玉県 電気機器 >

中国の不況が影響し、売上・利益も減少し、雇用人員も減少している。先が読めない状況である。

57. < 山梨県 電気機械器具 >

前年同月と比べ売上▲10%、収益状況は▲15%となった。銅と石油製品の価格が急速に高騰しているため電線類の見積もりを出すことができず、原材料の納期遅延も発生している。

58. < 静岡県 電気機械器具 >

白物家電の3月の業界統計では、出荷金額は3カ月連続のマイナスとなった。大型冷蔵庫及び家庭用エアコンの販売が伸びない状況を受けて生産は前年割れが続いており、組合員は売上減少に苦労している。

59. < 愛知県 配電盤 >

円安で原材料の価格が上昇し、値上げをせざるをえない状況となってきた。既に契約した物件は再契約して値上げすることもできないため赤字になる。現在、原材料の調達ルートを再検討している会員が多い。

60. < 三重県 電気機器 >

3月後半から4月中は受発注の動きが少なく80%程度の稼働率であり、今後上期の動向に期待している。

輸送機器

61. < 愛知県 輸送機器 >

景気動向は落ち込んでいる。車関連業種を中心に売り上げは停滞、減少が大きく、また原材料高の影響がある。生産性向上、利益追求が課題。

62. < 三重県 輸送機器 >

中国との関連が多いところでは、景気悪化の影響が顕著であり、物量減少、収益環境悪化となっている。収益環境が厳しい中、賃上げ回答は大企業中心に満額回答が多く、対応が必要な状況にある。

63. < 兵庫県 輸送用機械器具 >

前年同月比2.8%の増収であった。当月の売上高としては先月より改善されている。部門別には機械関係38.0%、精密機械部門3.0%の減収だが船舶関係は76.0%の大幅な増収であった。

64. < 愛媛県 造船 >

元請け会社は当面の仕事を確保しており、組合員においても仕事量が増加している。一方、マンパワー不足が続いており、これまで外国人材を採用していなかった事業主の受け入れも増加している。

65. < 高知県 船舶製造・修理 >

受注・売上ともに順調で高操業が続いている。取引条件は、手形サイトが60日となったため、代金の受取では好転となるが、支払いでは資金繰りがタイトになるため悪化となっている。

66. < 大分県 造船 >

請負単価が上昇したものの他の企業と比べるとまだまだ差がありすぎる。人手不足。求人を出しても応募がこない。

その他の製造業

67. <福島県 漆器 >
店頭販売は消費税増税前の売上には及ばなかった。ネット通販の動きはやや弱かったが、インバウンドは順調だった。百貨店の動きはない。
68. <長野県 漆器 >
コロナの5類移行に伴い、観光業が活発化してきたことで業務用品が昨年より伸びている。また、個人消費も動きが形として見えはじめるなど、全体的に微増ではあるものの安定的に伸びている状況。
69. <石川県 プラスチック製品 >
製造業は全般的に低調で、各分野の在庫調整局面が続いている。円高による輸出増加は見られていない。原材料や製造コスト、人件費が上昇するなど業界も苦戦している。
70. <奈良県 毛皮革 >
年々、毛皮製品の製造が減少傾向にあるので、オリジナル商品を製造し販売していくことが事業を継続していくうえで重要となってくる。毛皮鞣しについては、仕事がない状態である。
71. <和歌山県 なめし皮・同製品・毛皮 >
4月中旬頃より徐々にではあるが、注文引き合いが出始めた。長く続くよう期待している。コロナ解放から1年でようやく動きが出てきたように感じる。
72. <香川県 漆器 >
県内の景気はインバウンドなどにより少し良くなっているようだが、漆器業界はまだ良くない。材料の高騰など先の見通せない厳しい状況が続いており組合員各社、鋭意努力を求められる。

《非製造業》

卸売業

73. <岩手県 水産物 >
鮮魚の取扱量は前年同月比13%減、冷凍魚の取扱量は前年同月比11%増となり、漁獲量が少なく冷凍魚や塩干加工品の取扱量が増えたことがうかがえる。
74. <神奈川県 再生資源 >
新聞古紙はマレーシアや韓国、インドネシアからの需要が強まっており、供給タイトな状況から価格は上昇傾向にある。特にマレーシアからの引き合いが強く、同国主導で上昇相場が形成されている様子。
75. <石川県 一般機械器具 >
住宅市場は依然として低調ながら非住宅需要の堅調さは続いており、価格高騰分に加え、電線をはじめとする復興需要も出てきており、売上・収益共に前年を上回っている。
76. <広島県 総合 >
原材料高等に伴う仕入価格上昇に対する販売価格転嫁は、卸業種の各取扱商品間で概ね浸透出来ているが、間接コスト上昇（人件費等）分の販売価格転嫁は道半ばの状況にある。
77. <福岡県 紙 >
国内製紙会社の生産状況は良くない状態が続いている。しかし一部の国内メーカーは為替が円安という事もあり、製品を海外に輸出するメーカーも出てきている。
78. <熊本県 各種商品 >
建設関連では、前月に続き県内で倉庫物件の設備投資が増加してきており、資材の売上が前年度よりも上向きとなっている。食品卸でも外食が増加していることから売上に関しては増加した。

小売業

79. <北海道 各種商品 >
観光客は戻ってきているが、平日に一般客が少ない。年度変わりで出費が多いためか、総購入金額が少ないとの声もある。月末特売日には、価格が安い日にまとめて買い物する地元客が多く来場していた。
80. <埼玉県 小売業 >
高齢化により廃業又は年内で廃業を予定している店舗が増えている。個人の店舗でもキャッシュレス決済を導入する店舗は増加しているが、手数料負担が増え厳しいという声が多くなってきている。
81. <長野県 織物・衣服・身の回り品 >
商品だけでなく梱包資材、販促品なども軒並み値上げとなり、価格の見直しが必要となっている。新規商品の導入も検討するが、以前のような委託販売による取引が難しくなっていると感じる。
82. <富山県 農機具 >
資材等の価格高騰が続いていることや、令和5年産の米の品質低下で農業者の収入が減少したことによる機械購入意欲の低下が響いて、業界はとても厳しい状況である。
83. <広島県 各種商品 >
スーパーマーケットでは、売上の低い曜日にセールを実施することで、安定した客数を確保できるようになり、施設全体にとってもプラス効果が期待される。
84. <大分県 露天商 >
本格的な祭りシーズンとなったが、昨年の客足と違い今年の人出は平年状態に落ち着くも、個人購買額は経済の悪影響からか買い控えが目立つ状態であり、収入面ではあまり期待がもてない状況にある。

商店街

85. <東京都 商店街 >
外国人観光客の入国制限解除以降、多くのインバウンド客が押し寄せている。ほとんどの店舗でその恩恵を受けて景況が好転。更に円安も手伝い売上も増加している。
86. <新潟県 商店街 >
歓送迎会などで飲食店は昨年度を上回る状況になった。商店街全体でも新型コロナウイルス禍前まではいっていないが、大分回復はしている。今後もイベント等も増えていくので集客に期待したい。
87. <長野県 商店街 >
桜の開花が例年に比べ大幅に遅れたが、例年になく暖かく人出も多かったため、週末には夜桜の見物客が商店街まで流れ込み、飲食店は賑わいをみせた。

88. < 奈良県 商店街 >
インバウンドの復活によって、さまざまな方面からの外国人が増え、街の中はにぎわいを取り戻している。しかし、住民自身による消費の活性化という状況には至っていない。
89. < 岡山県 商店街 >
来街者は外国人観光客を含めると、コロナ禍以前と変わらない。インバウンド関係及び飲食店は概ね良好であった。しかし、全体的には更なる諸物価の値上げにより収益的にはまだまだ厳しい状況にある。
90. < 長崎県 商店街 >
気候も安定して市民の外出意欲も向上し、人出は増えている。インバウンドの効果もあり、消費は伸びている感がある。一方で、食品を中心に値上げが止まらず、生活費が逼迫するのではと危惧している。

サービス業

91. < 福島県 クリーニング >
4月に入り冬物のジャンパーやコート等の整理が始まり、気温の上昇と共に忙しさが増している。リネン関係も観光シーズンを迎え増加傾向にある。
92. < 群馬県 旅館 >
円安影響もあり、外国人旅行者が増加。中には宿泊者数がコロナ禍前の水準を超えた旅館もある様子。
93. < 東京都 飲食 >
材料費等の高騰により販売価格を値上げしたが、来店客数、収益状況ともに好転。アルバイトの募集しても応募がなく、困っている店舗が多い。
94. < 静岡県 宿泊 >
組合員旅館の宿泊人員は、前年比109.7%と増加した。グループ客やインバウンドも徐々に増加している。
95. < 岐阜県 旅館 >
4月の春の高山祭も例年通り開催され、インバウンドのお客が増加し、街中が活気づいてきたようである。ゴールデンウィークも満室の施設があるようで、このまま上向きになればよいと思う。
96. < 福井県 ホテル・旅館 >
北陸新幹線開業からGWまでは、北陸応援割もあり好況となった。東京、神奈川等関東方面からのお客が増え、北陸新幹線延伸の効果を感じる一方、中京関西方面からの宿泊客の割合が減少した。

建設業

97. < 岩手県 土木工事 >
複数の大型民間物件へ対応するため、車両のやりくりが一番大変で、2024年問題とも絡みやかに運転手を確保するか、全国共通の悩みである。
98. < 秋田県 管工事 >
4月の景況は、前年同月比で悪化した。資材価格の高騰が続いている中、設計価格が現状価格に追随していない等、価格転嫁が難しい状況にある。
99. < 群馬県 塗装工事 >
仕事量について、落ち込んだ前年とほぼ同様の状況。賃上げを十分に行えない組合員も多く、全体的に労働単価の引き上げの必要性を感じている。
100. < 滋賀県 管工事 >
材料価格、賃金等の高騰により利益を上げていくのが難しい状況が続いている。そのような状況により、住宅の新築価格の高騰、リフォーム価格の高騰等により、施工件数の減少が起こることが懸念される。
101. < 島根県 総合工事 >
民間工事においても少しずつ価格転嫁への理解が進みつつある。また、物流問題に係る影響について、資材調達の際の遅延など特段の支障は出ていない模様。
102. < 愛媛県 電気工事 >
銅ベースの価格上昇が止まらない。電線・ケーブルなど品薄状況に加えて、価格が高騰している。他の電設資材も値上げ傾向にあり、難しい状況が続いている。

運輸業

103. < 山梨県 道路貨物 >
時間外労働の上限規制が本格的にスタートしたが、ドライバー不足が深刻化しており、運行体制の維持すら困難な状況であるが、運送業界だけで解決できる問題ではない。
104. < 鳥取県 貨物 >
4月の売上高は、前月比、前年同月比ともに減少しており厳しい状況が続いている。低調であったと荷動きに兆しが見られたものの、長引く燃料価格の高騰は依然として輸送コストの増加をもたらしている。

105. < 岡山県 バス >
観光バスの集客人員は前年同月比116%となった。観光需要は前月に続いて旺盛で、人流回復により前年より良化している。高速バスは前年同月比144%と対前年比では大幅なプラスを継続している。
106. < 山口県 一般貨物自動車 >
物流に関しては、荷物運送、倉庫保管量共に増加している。特に建築・工業製品関係が増加している模様。依然として庸車の確保は難しく、車両が不足している状況が続いている。
107. < 福岡県 道路貨物 >
荷動きはあるものの運賃が合わず車両手配が出来ない場合があった。また、運賃は上がっているものの交渉中の取引先が多い。4月度は売上・利益とも前年割れとなった。
108. < 鹿児島県 運輸・倉庫 >
物量は昨年と比べ増えたが幹線車両が少なく、空車で荷物を取りに行く事もあった。長距離運行はフェリー使用等で働き方改革への取り組みを行っているが費用負担が増している。

その他の非製造業

109. < 千葉県 輸出入 >
空港店舗においては、先月後半の好調さを保ったまま、結果として前月比110%を記録した。円安にあと押しされたインバウンド客のお陰で好調さを維持できている状況である。
110. < 神奈川県 不動産 >
賃貸繁忙期も一段落し、例年ながら売上は一度落ち込む時期であるが、4月はリフォーム等の受注が多少伸びたため売上減少は最小限に抑えられた。しかしながら、住宅設備等の原価高騰で利益率は高くない。
111. < 奈良県 質屋 >
金価格は過去最高値を更新しているが、取引件数は低調である。ブランドバッグは国内需要が若干回復傾向にあるが、高級時計とダイヤモンドの相場は低調。
112. < 兵庫県 物品賃貸 >
4月からの値上げについては、昨年10月からの人件費の上昇分を簡単に吸収しにくいところがあり、収益増加というよりは悪化していた収益を幾分取り戻せた、というイメージに近いと思われる。
113. < 岡山県 信用組合 >
4月については、全業種業況は横ばいが続いている。人材に課題をかかえている企業が多いことから、信組業界を通じての新現役の紹介等本業支援に力を入れていく。
114. < 広島県 不動産 >
不動産市場については、旧市内やアストラムライン沿線の平地の利便性の良い地域の住宅地が高騰しており、安価な高台の住宅団地の需要が増加しているため、地価も上昇傾向になってきている。